

自主研修部会「新聞で生き生き学習」

7月26日（水）に、男女共同参画センターにて自主研修部会を開催しました。豊橋市東部地区市民館飯村分館館長（元松山小学校長）小野浩史様より「新聞で生き生き学習」をテーマにお話ししていただきました。新聞教育のねらいや新聞記事を活用した授業実践の紹介など、NIE（教育に新聞を）についてわかりやすく教えていただきました。



【参加者の感想】

- ・ICTの活用が推奨される中で、紙媒体である本や新聞の活用こそが今本当に必要な力だと思った。
- ・学んだことをいかした授業を行い、もっと生徒たちに新聞に触れさせたい。
- ・朝の活動や読むペースなど、子どもたちが新聞に親しめる環境づくりをすることが大切だと思った。
- ・「情報を読み解く力」「情報を創造・発信する力」「社会へ参画する力」など人が成長していくうえで不可欠な要素が詰まっており、子どもたちが社会に出るときに必要なものだと学んだ。
- ・（見出しの）効果や言葉にこだわることを意識して取り組ませると、ただの感想のまとめではない新聞作りになると学んだ。
- ・情報モラルはデジタル機器だけではないと感じた。子どもだけでなく、大人も学んでいきたい。
- ・教えていただいた情報モラルの基本「相手を思いやる心」を伝えていきたい。
- ・新聞＝難しいという印象だったが、どの学年でも取り組めそうな実践がいくつもあり、勉強になった。

研究部研究大会

12月19日（金）に、豊橋市役所（講堂）にて、研究部研究大会が行われました。本年度は、二川中学校の佐藤沙悠美先生の実践の成果が発表されました。

テーマは、「仲間との交流によって読書の新たなおもしろさに気づく生徒の育成～3年・国語「握手」の実践を通して～」。

国語の授業において、読みの視点を獲得し、自分とは異なる考えに触れるために、「リテラチャーサークル」の手法を取り入れたり、本の魅力を人に伝えたいという思いを高めるために、ビブリオバトルやPOP作成などの読書活動を取り入れたりする実践について報告がありました。生徒が同じ本を仲間と読み深める楽しさや自分では気づかなかった魅力を知り、読書の新たなおもしろさに気づくことができた



すばらしい実践でした。その後のグループ討議では、研究部の先生がたの実践レポートをもとに、図書館教育について活発な話し合いが行われました。また、助言者の杉山小学校教務主任の河合知美先生からは、杉山小学校の実践例を交えながら、学校図書館司書や地域ボランティア、保護者と連携した読書活動の推進について、貴重なお話を伺うことができました。

指導助言

- ・「リテラチャーサークル」の手法を取り入れ役割を決めて読むことで、自立した読み手を育てることができていた。
- ・「考え読み」「調べ読み」「楽しみ読み」この3つを絡ませ、読書を日常にいかしていける実践だった。